

酒々井町

郷土研究会会報

第118号

平成17年10月1日  
酒々井町郷土研究会  
広報部

酒々井の河岸

青木 朝次

千葉氏の居城であった本佐倉城の北の玄関口は、大佐倉の「浜宿湊」でした。印旛浦に面し、戦国時代から戦略上重要な水上交通路の要衝として、また、国内外との商業活動に不可欠な通運の拠点として、重要な役割を担う水の玄関口でありました。

千葉氏滅亡後の天正十九年(一五九一)に徳川家康の支配の下で酒々井町が取立てられ佐倉六町の一つとなりました。その際、酒々井町が未久しく栄えるようにと、いろいろの策が講じられました。その一つとして慶長年間に酒々井域に新たな渠(堀)を拓き「新堀河岸」を築いたと伝えられています。

このほか酒々井町には、人を運ぶ渡船や物資を運搬する船運があり、その為の河岸がありました。 「大鷲河岸」は砂地のため大船(百石以上)の接岸が出来ず大掛かりな

港の改築が行われた跡が今も田圃の中にはっきりと残されています。

「柏木河岸」は取付道路が良く繁盛しましたが遠浅で大船が入れず、沖合いに大船を停め、舁はしけで少しずつ運んでいました。

「中川河岸」は街道に近く交通量が多く、対岸の印旛村角崎との距離も短かった為多くの人に喜ばれ利用されてきました。大正十五年京成酒々井駅が開設してからは、さらにその利便さが増し利用客が急増したため、中川区が中川渡船組合を組織し、船にエンジンを取付けるなどの対応に当りました。印旛沼の干拓が進み、昭和四十三年に中平橋(中川平賀)が架けられるまで続きました。 ちなみに渡船客の少ない河岸では片船頭かたせんとうといって一方の河岸だけに船頭が居て、利用客が来て対岸に音または旗などで合図して迎えに来て貰うという不便な方法でした。

余談ですが口伝によると飯積でも高崎川を利用し、小船で荷物の運搬をしていたらしい。おもに米を佐倉のお城へ納めていたようです。戦後の耕地整理で当時の面影はなくなっていますが、高崎川一帯を見渡せる尾上の高台に、航海安全の神「住吉神社」が祀られています。古き時代、尾上と飯積は一つ村だったかもしれない、と想像逞しくいろいろ考えてみるのもまた一興でしょう。



中川の景 三代目広重画「成田土産所見」より(成田図書館蔵)

一昔前、下がり松より印旛沼に浮かぶ高瀬船の姿を見ることができ、風のある時は所有者の紋所又は名称を大書きした帆を掛け、静かに移動する様はまさに一幅の絵で、「成田土産名所」の中に三代目広重が描く「中川の景」にも見事に描かれております。旅人も下がり松より見る帆掛船の景色は心を和ませるものであったことでしょう。

水上交通資料

印旛沼の渡船

渡し名	渡船区間
甚兵衛渡し	北須賀(成田市)吉高(印旛村)
下方	鳥居河岸( )平賀花島( )
中川	川(酒々井町)平賀新福寺( )
大佐倉	大佐倉(佐倉市)平賀新福寺( )
飯田	飯田( )平賀堂下( )
萩山	山( )山田岩井戸( )
土浮	浮( )瀬戸大川岸( )
鎌刈	刈(印旛村)土浮(佐倉市)
臼井	井(佐倉市)師戸(印旛村)
久左衛門	戸(印旛村)臼井八幡下(佐倉市)
岩戸	戸( )先崎( )
保品	品(八千代市)吉田(印旛村)

酒々井町史より

大船所有者  
 岡田竹次郎(中川)  
 岡田七兵衛(中川)  
 石井鉄三郎(上岩橋)  
 相京久右衛門(柏木)  
 相京弥太郎(柏木)  
 小坂新兵衛(大鷲)  
 鶴岡造酒衛門(酒々井)  
 木内常三郎(酒々井)

戦後六十年と酒々井

岡田 利光

昭和二十年八月十五日の正午過ぎ玉音放送が流れ、昭和天皇が国民に、戦争の終結をつげた。

このとき生れた子供が還暦を迎えたというから年をとるのも無理はない。私はこのとき十六歳半で千葉県に一つしかなかった工業学校の生徒であった。

ちなみに当時ラジオを持っていた家は三戸に一戸位だった。テレビ・電気冷蔵庫・洗濯機などは無いに等しかった。

この年六月に入ると米空母の艦載機グラマンによる低空爆撃が毎日のようにあり、千葉の寒川にあった軍需工場に千葉駅から歩いて行くにも命がけだった。千葉市は七月七日に一二四機の爆撃を受け一六〇人が死傷し、旧市内は大和橋まで焼け野原で、新検見川にあった我が母校も無残な姿で焼けていた。

酒々井町はというと送電線を狙ってB29が爆弾を落としましたが外れて田圃に大穴があいていた程度で、軍司令部があったのに幸い空襲は無かった。このB29が二十年一月

二十八日に伊籬に墜落した話は会報の第九八号に掲載されているので省略する。

戦前の酒々井町の人口は今の約三分の一で、小学校は町立酒々井尋常高等小学校が唯一つ。どの地区からも歩いて通学した。ただし上岩橋と墨に分教場があつてその地域の一年生はそこに通学した。

中学校は無く、進学する人(全体の二〇%位)の多くは一番近い佐倉中学校(現佐倉高校)と佐倉高等女学校(現佐倉東高校)に入学した。

柏木の藤根付近の印旛沼は水泳に適していたので、夏になると小学生は先生に引率されて水泳授業があり、高学年の生徒は対岸の平賀(印旛村)まで四〇〇メートル位泳いでゆく人もいた。

小さい町ではあつたが戦時下、召集令状により出征してゆく青年が毎週のようにいて、午後になると国鉄酒々井駅まで行き三年生以上全員が駅頭で出征兵士を歌で送り出す行事があり、汽車がトンネルで見えなくなるまで武運長久を祈り日の丸の旗を振ったことが忘れられない。

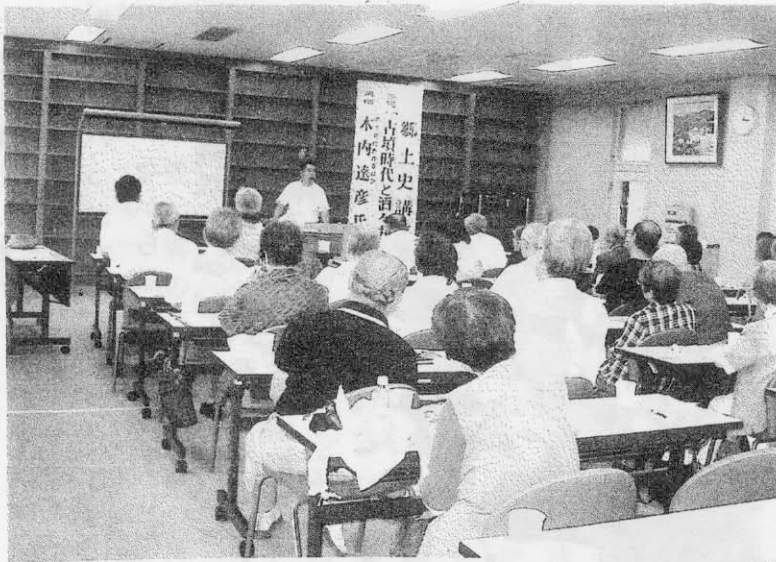
この国鉄駅は明治三一年開業と古く、当時駅長もいて官舎も三戸位あった。京成駅は無人で切符は車掌から購入した。

十月半ばの収穫の祭礼にはどこの村落でも神社入り口に幟旗のぼりばたを立て花火で合図した。大鷲神社では境内に時代劇の芝居が掛かり見物に行つた。上宿の八坂神社の神輿が「下り松」をおりて来て揉みながら国鉄駅と京成駅で威勢を揚げたうえに良く喧嘩もしていた。

東酒々井、中央台、成城台などは勿論まだ造成されてなく、春は山桜が咲き秋には初苺が沢山採れ、良く草刈されて綺麗な野草が咲く山であった。



国鉄酒々井駅 昭和54年



印旛沼の遠浅の所では十五センチ位のタンケ(カラス貝)が非常に良く採れ富里方面からも取りに来ていた。また沼面には「菱」がぎっしり生えていてその菱の実の白い中身を食べるととても美味かった。鮎も良く釣れたし、帆掛船が良く通るので写生もした。

戦争が無ければよき時代であつたと思う。

郷土史講座を

聴いて

寺本 恵美

郷土史講座は酒々井にある古墳群についてのお話であるということでした。

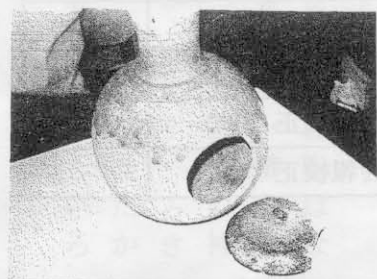
酒々井町にはすでに四世紀後半に

は大きな集落があつたらしく、上岩橋の岩崎古墳には剣や玉が出土し、円墳であり数が多くあつたとの事ですが、今は団地になり昔日の面影はありません。

鬼塚古墳からは酒々井で唯一埴輪が出土したとのことでした。

大鷲神社古墳も円墳で石枕などが出土し、これは実物を見せていただきました。出土した土器の中には茨城県や愛知県で造られた物があり、流通の広さに驚きです。酒々井付近は古墳時代の昔から強い権力があつたとのことであらためて酒々井の素晴らしさが分る講演でした。

今日はありがとうございました。





夏の野草観察会 於八月三日

標 さつき

今回は春行われました西井戸周辺の観察会に続き、夏に咲く「ヤブミヨウガ」の花を見ましよう」と夏の観察会が行われました。

「ヤブミヨウガ」はツユクサ科ヤブミヨウガ属の多年草で関東地方以西の暖帯に分布し湿った半日陰地に群生しますが、酒々井では「里山の会」の皆様が活動でよく手入れされた杉林の中に群生しています。これだけ多く群生している所は少ないようです。

真夏の昼下がりに公民館に参集し里山に向かいました。標示板の前で青木会長さんの挨拶の後、手足に虫除けスプレーを吹きかけ首にはタオルを巻き、手にはうちわを持って道を下って杉林に入りますと、今までの暑さとは違い頬を撫でる風も一瞬涼を感じます。

斜面には木々の間から光がこぼれ、一面青々とした大きな葉、真直ぐ立つた茎の各節に輪状に咲いた真っ白いかわいらしい花々、本当に見事に咲いておりしばらく佇んで見とれていました。

来年花の咲く頃に皆様一見のほどをお薦めします。

里山で活動されている方々に感謝し、いつまでも自然を大切にしたいと思ひながら帰路に着きました。



あとがき  
朝、夕涼しさが増し秋らしくなってきました。

郵政民営化の是非をめぐる解散総選挙も、自民党が四八〇議席のうち二九六議席を獲得する大勝で決着がつかしました。

自分の考えを自分の言葉で話す小泉首相が「政治を変えよう」という有権者に支持されたのでしょうか。新人議員が多数生まれました。今までとは違う国民の為の政治が行われることを願いたいものです。郷土研究会にも新人が多数入会されますよう、会員の皆様がお知り合いに声を掛けていただき郷土研の行事などにお誘いくださいさるようお願いいたします。

郷土研日誌

月日	内容	参加者
6・25	会報印刷	6
6・29	会報発送・臨時運営委員会	19
7・2	史談会	15
7・19	古文書を読む会	14
7・29	野草観察下見	5
8・3	夏の野草観察会	14
8・6	郷土研 勉強会	10
8・20	研修部会	8
8・28	郷土史講座	50
8・28	会報打合せ	6
8・30	運営委員会	19
9・1	会報編集	4
9・9	会報編集	5
9・12	日帰り見学下見	2
9・13	会報校正	5
9・18	会報校正	5
9・20	古文書を読む会	10
9・20	会報校正	5
9・24	会報校正	5

見学

案内

日帰り見学会

十二月二日(金)

雨天決行

大多喜・久留里方面

紅葉が少し過ぎてしましますが城下の面影を残す大多喜へ行ってみませんか。

徳川四天王の一人、本多忠勝が治めた十萬石の城下町で古い町並みが残っています。お城から緑の房総半島の眺めは素晴らしいです。

また、平安時代から城があったといわれている久留里城址へも行きます。急な坂を少し歩きますが二の丸跡からの眺めもまた格別です。男井戸・女井戸を左に見て行くと久留里城の天守閣に着きます。

大多喜城(総南博物館)も久留里城も昭和になってから建てられたものですが、ここで昔を偲んでみては如何でしょうか。



名勝探訪

十二月十四日(水)

雨天代替十二月十六日(金)

谷中方面

忙しい月、ちよつと一息、気分転換してみませんか。

下町の面影が残っている谷中。日暮里駅から緩やかな坂道を上り、こじんまりとした家並みを通ると、大きい建物の朝倉彫塑館があります。彫刻家・朝倉文夫自身が設計し、アトリエ兼住居だったのを今は一般に開放しています。お庭や約五十点近い彫刻をゆつくりと拝観し、大名時計博物館へ、ここは夏の間は休館です。勝山藩下屋敷跡にあり、古い時計を少し勉強してみるのもいいですね。浄名院は八万四千躰の地蔵が造像されていて今でも増えています。たん・せきに効験あらたかだそうです。江戸六地蔵の一つです。

言問い通りを鶯谷駅の方へ歩いて行くと正岡子規がお母さんと妹と住んでいた子規庵があります。歩きながら見て日暮里に戻り、ここで解散します。昼食は解散後各自で自由にお取りください。

(注)手弁当を食べる所はありません。

お知らせ!

このたび美しいカラー刷りの図録集「絵馬 Shisui」を刊行しました。

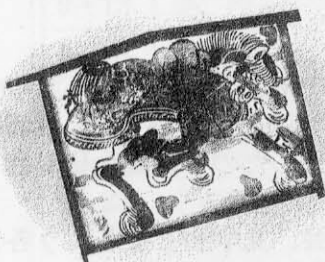
これは平成十年の町制施行百周年記念絵馬展を開催した折に、郷土研に於いて二年間に亘り町内の寺社全てを調査して集録したものです。

この貴重な資料が、埋もれてしまふのは忍び難く、酒々井町の文化遺産であり民族信仰の歴史である絵馬を郷土研究会発行の資料集として残したいという上田、久我両会員の熱い思いとご寄付とご尽力によって実現したものです。是非ご覧下さい。

この図録集は、酒々井町図書館でご覧になれます。また、ご希望の方は社会教育課文化財係(電話四九六二七二内線三二二)で購入もできます。

絵馬

Shisui



酒々井の絵馬

## 郷土研行事案内

平成17年10月～12月

	10月	11月	12月
史談会	休 講	休 講	3日(土) 13:30 中央公民館会議室 「古今佐倉真佐子」(21) 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	10月 18日(火) 13:30 プリミエール酒々井 「島田家文書」(21) 講師：青木朝次会長	11月 15日(火) 13:30 中央公民館 「島田家文書」(22) 講師：青木朝次会長	12月 休 講
日帰り 見学会	<p>「大多喜・久留里方面」</p> <p>12月2日(金) 雨天決行 定員 33名 町バス利用 参加費 1,500円(昼食代を含む)</p> <p>申込受付 10月7日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー</p> <p>集合時刻・場所 8:45 中央公民館 コース 公民館—大多喜城(総南博物館)—道の駅(「たけゆらの里おおたき」)で 昼食—久留里城址—公民館 16:30 帰着予定 (場合によりコース変更あり)</p> <p>キャンセル 実施3日前まで 寺本 へご連絡下さい。 皆様のご参加をお待ちしております。</p>		
名勝探訪	<p>「谷中方面」</p> <p>12月14日(水) 雨天代替日 12月16日(金)</p> <p>集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅 コース 京成酒々井駅—日暮里駅…朝倉彫塑館…大名時計博物館…浄名院 …日暮里駅—京成酒々井駅 16:00 頃解散予定 (場合によりコース変更あり)</p> <p>* 自由昼食(手弁当を食べる所はありません)</p>		

## 《急告》

## 傷害保険のことについて

郷土研究会では、これまで行事のうち名勝探訪・町内史跡巡り・野草観察会など、外歩きや酒々井町外に出かけるときの行程で、怪我や毒虫さされなどで医療を受ける事態を想定して「レクリエーション保険」に加入しておりましたが、保険会社が商品として当該保険を取り扱わなくなりましたので、郷土研究会としては行事に対する保険加入が出来なくなりました。

会員の皆様におかれましては、行事参加の折には充分気をつけ、楽しい学習会、見学会となるよう各自心掛けていただきますようお願い申し上げます。

総務部